

高知工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	都市計画 I
科目基礎情報					
科目番号	V5013		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	SD まちづくり・防災コース		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 三村浩史「地域共生の都市計画」(学芸出版社)				
担当教員	北山 めぐみ				
到達目標					
1. 都市や地域を計画することの意義について理解し、説明できる。 2. 近現代から現代までの都市計画の流れについて理解し、説明できる。 3. 我が国の都市計画の制度について基本的事項を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	都市や地域を計画することの意義について深く理解し、しっかりと説明できる。	都市や地域を計画することの意義について理解し、説明できる。	都市や地域を計画することの意義について理解しておらず、説明できない。		
評価項目2	近現代から現代までの都市計画の流れについて深く理解し、しっかりと説明できる。	近現代から現代までの都市計画の流れについて理解し、説明できる。	近現代から現代までの都市計画の流れについて理解しておらず、説明できない。		
評価項目3	我が国の都市計画の制度について基本的事項を深く理解し、しっかりと説明できる。	我が国の都市計画の制度について基本的事項を理解し、説明できる。	我が国の都市計画の制度について基本的事項を理解しておらず、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
基準1(2)(d)(3)					
教育方法等					
概要	都市は、オフィスや住宅などの建築や道路などの社会基盤、オープンスペースをも含んだ、社会生活を営む空間単位である。本科目では、都市空間を制御する手法としての都市計画について、その基本事項を学ぶ。住みやすいまち、住みたいと思えるまちとはどのようなものであろうか。本講義では、都市の起源や近現代の都市計画論から、現代の我が国における都市計画制度の基礎、及び、持続可能な都市、住民参加のまちづくりの意義などを、「理論」と「事例」から理解し習得することを目指す。				
授業の進め方・方法	資料やパワーポイント、板書による講義形式で授業を進める。設定したテーマや内容についてメモをとり、レポートやプリントの回答を作成して提出する。インターネットで詳しく調べたり班ごとに話合いや教え合いを行う(アクティブラーニング)。詳細は授業計画のとおり。				
注意点	【成績評価の基準・方法】 試験の成績を60%、平素の学習状況等(課題・小テスト・レポート等を含む)を40%の割合で総合的に評価する。前期の評価は中間と期末の各期間の評価の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。 【事前・事後学習】 事前学習として、次回の授業内容をあらかじめ提示するので、教科書の該当部分に通すこと。事後学習として、授業内で指示した課題を提出すること。 【履修上の注意】 この科目を履修するにあたり、まちづくり・防災概論、建設社会学、防災工学Ⅰ・Ⅱの内容を十分に理解しておくこと。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション: 都市歴史マンガづくりを通して都市とは何か、計画とは何かを理解する。	都市の姿とその変容を都市計画との関係都市・都市計画とは何かを説明できる。	
		2週	近代以前の日本の都市計画について学ぶ。	近世以前の日本の都市計画について説明できる。	
		3週	近代以降の日本の都市計画について学ぶ。	近代以降の日本の都市計画について説明できる。	
		4週	近代以前のギリシャ・ローマの都市計画について学ぶ。	近代以前のギリシャ・ローマの都市計画について説明できる。	
		5週	近代の都市計画理論(田園都市、近隣住区論、パタン・ランゲージ、都市のイメージ等)について学ぶ。	近代の都市計画理論(田園都市、近隣住区論、パタン・ランゲージ、都市のイメージ等)について説明できる。	
		6週	近代の都市計画理論(田園都市、近隣住区論、パタン・ランゲージ、都市のイメージ等)について学ぶ。	近代の都市計画理論(田園都市、近隣住区論、パタン・ランゲージ、都市のイメージ等)について説明できる。	
		7週	都市計画学習かるたづくり	都市計画の専門知識の要点について理解し、イラストと短文で表現できる。	
		8週	都市計画制度の構成、都市計画区域の指定、都市計画決定の流れを学ぶ。	都市計画制度の構成、都市計画区域の指定、都市計画決定の流れについて説明できる。	
	2ndQ	9週	都市計画マスタープランと立地適正化計画についてプロセスと実例を学ぶ。	都市計画マスタープランと立地適正化計画について、プロセスと実例を説明できる。	
		10週	都市計画マスタープランと立地適正化計画についてプロセスと実例を学ぶ。	都市計画マスタープランと立地適正化計画について、プロセスと実例を説明できる。	
		11週	土地利用計画(都市計画区域・順都市計画区域)について学ぶ。	都市計画区域、準都市計画区域について説明できる。	
		12週	土地利用計画(区域区分・用途地域制)について学ぶ。	区域区分の意義や考え方、用途地域制の意義や内容について説明できる。	
		13週	土地利用計画(地区計画制度・開発許可制度)について学ぶ。	地区計画制度、開発許可制度について説明できる。	
		14週	都市施設の整備(都市交通計画・交通施設)について学ぶ。	都市交通計画、交通施設の整備について、考え方と実例を説明できる。	

		15週	都市施設の整備（公園・緑地・下水道施設等供給施設）について学ぶ。	公園・緑地等の意義や計画、下水道施設等供給施設の整備について説明できる。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野 計画	国土と地域の定義を説明できる。	2	前1	
			日本、世界における古代、中世および現代の都市計画の思想および理念と実際について、説明できる。	2	前2,前3,前4,前5	
			都市計画法と都市計画関連法の概要について、説明できる。	2	前7	
			土地利用計画と交通計画について、説明できる。	2	前5,前13,前14	
			総合計画とマスタープランについて、説明できる。	2	前8,前9	
			都市計画区域の区域区分と用途地域について、説明できる。	2	前10,前11,前12,前13,前14,前15	
			緑化と環境整備(緑の基本計画)について、説明できる。	2	前15	
			風景、景観と景観要素について、説明できる。	2	前7	
			都市の防災構造化を説明できる。	2		
			土地区画整理事業を説明できる。	2		
			市街地開発・再開発事業を説明できる。	2		
			建設系分野 計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。	2	前6
				近現代都市の特質と課題について説明できる。	2	前3,前4,前5
				近代の都市計画論について説明できる。	2	前3,前4,前5
	現代にいたる都市計画論について説明できる。	2		前3,前4,前5		
	市街地形成と都市交通のあり方について説明できる。	2		前13,前14		
	街路計画の手法と理念について説明できる。	2		前13,前14		
	日本の土地利用計画の仕組みについて説明できる。	2		前10,前11,前12		
	方法・制度の変遷について説明できる。	2				
	景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	2				
	市街地を開発する仕組みについて説明できる。	2				
	土地区画整理事業について説明できる。	2				
	市街地再開発事業について説明できる。	2				
	地区計画制度について説明できる。	2				
	建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	2				
	都市と農村の計画について説明できる。	2	前6			
都市・地区・地域・建築物の規模に応じた防災に関する計画、手法などを説明できる。	2					
評価割合						
		試験	提出物	合計		
総合評価割合		60	40	100		
基礎的能力		0	0	0		
専門的能力		50	30	80		
分野横断的能力		10	10	20		